

安全データシート(SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	NOROCON AIR LIFE GEL
製品コード	ARCH DTG G
会社名	ガーデンシステム株式会社
住所	東京都世田谷区大蔵1-16-10 4F
電話番号	03-6450-2919
緊急時の電話番号	090-2151-6276
FAX番号	03-3749-2025
メールアドレス	info@norocon.net
推奨用途及び使用上の制限	アンモニア、アミン類、ホルムアルデヒド、カビ等の吸着消臭剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日	分類基準に該当しない。	
物理化学的危険性	GHS分類マニュアル(H22 改訂版)を使用	
	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) (気道刺激性、呼吸器系)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) (骨、歯、呼吸器系)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性

分類できない

水生環境慢性有害性

分類できない

オゾン層への有害性

分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語

警告

危険有害性情報

長期継続的影響によって水生生物に有害  
飲みこむと有害

注意書き

【安全対策】

データなし

【応急措置】

データなし

【保管】

データなし

【廃棄】

データなし

【国・地域情報】

### 3. 組成及び成分情報

1) 化学物質・混合物の区別 水溶液混合物

2) アクリル酸、アクリルアミド、スチレンスルホン酸塩、尿素、グルコース、及びその他を成分とする共重合体と有機複合防黴剤と寒天及び精製水の混合物

成分	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号
スチレン・アクリル酸共重合体	10～30%	非公開	非公開
有機複合防黴剤	1.0%未満	非公開	非公開
寒天	非公開	非公開	非公開
水	非公開	7732-18-5	—

### 4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪くなった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。異常が改善しない時は、医師の診断を受けること

皮膚に付着した場合

皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。嘔吐が生じる場合、嘔吐物が気道に入るのを防ぐために患者をうつ伏せにするか、または左側を下にして寝かせる。気分が悪く、症状が改善しない時は、医師の診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状

データなし

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

### 5. 火災時の措置

消火剤

未設定(燃焼しない)

使ってはならない消火剤

未設定(燃焼しない)

特有の危険有害性

データなし

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合には容器及び周囲に散水し冷却する。

消火を行う者の保護

火災発生場所の周辺に、関係者以外の立入りを禁止する。救助者は、状況に応じて適切な保護具(空気呼吸器、耐熱性防護衣)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具および緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を  
着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

適切な防護衣をつけていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れたり、  
その中を歩いたりしない。低地から離れる。風上に留まる。

環境に対する注意事項

密閉された場所に立ち入る前に換気、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化方法・機材

河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

二次災害の防止策

危険でなければ漏れを止める。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。すべての発火  
源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。床面に残ると滑  
る危険性が生じる為、こまめに処理すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策  
局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い保護具を着用する  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。  
皮膚との接触を避けること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

保管 技術的対策  
混触危険物質  
保管条件  
  
容器包装材料

消防法の規則に従うこと。  
「10.安全性及び反応性」を参照。  
炎及び熱表面から離して保管すること。  
直射日光、湿気は避けること。  
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉して保管場所に施錠すること。  
製品に使用している容器

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度  
許容濃度 ACGIH

未設定  
データなし

設備対策

この物質を貯蔵又は取り扱う作業場には、手洗い、眼洗浄施設及び安全  
シャワーを設置したほうがよい。

保護具 呼吸器の保護具  
手の保護具

特別な換気要求事項はない。  
適切な呼吸用保護具を着用すること。  
液体が浸透しない適切な保護手袋を着用する。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面  
接触が起こりうる時は、包括的な化学飛沫用のゴーグル又は眼鏡、及び顔  
面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。液体が浸透しないものを着  
用する。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態 形状  
色  
臭い  
pH

ゲル  
淡黄色または淡緑色  
わずかな特異臭  
データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点(°C)

難燃性

燃焼又は爆発範囲の上限・下限

データなし

蒸気圧	データなし
比重(25°C)	データなし
溶解度	水溶解性(任意に溶解)
自然発火温度(°C)	データなし
粘度(mPa·s)	データなし

#### 10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱い条件においては安定。 圧力、温度変化によって結晶形の変化を起こす。
危険有害反応可能性	弱酸性物質であり塩基性化合物を中和する。
避けるべき条件	使用時以外は、直射日光や空気、他の物質と接触させない。
混触危険物質	塩素化合物と混合、接触させない
危険有害な分解生成物	データなし

#### 11. 有害性情報

急性毒性	経口	データなし
	経皮	データなし
	吸入	吸入(ガス): GHSの定義による液体である為、ガスでの吸入は想定されず分類対象外とした。 吸入(蒸気): データなし 吸入(ミスト): データなし
皮膚腐食性・刺激性		情報がない為、分類できない。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		情報がない為、分類できない。
呼吸器感作性		情報がない為、分類できない。
皮膚感作性		情報がない為、分類できない。
生殖細胞変異原性		情報がない為、分類できない。
発がん性		情報がない為、分類できない。
生殖毒性		情報がない為、分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)		情報がない為、分類できない。
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)		情報がない為、分類できない。
吸引力呼吸器有害性		情報がない為、分類できない。

#### 12. 環境影響情報

生態毒性	データなし
水生環境急性有害性	データなし
水生環境慢性有害性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	混合物としてのデータなし

#### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。
汚染容器及び包装	

#### 14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報 IMO/IMDGの規定に従う。 航空規制情報 ICAO/IATAの規定に従う。 UNNo. 国連の分類に該当しない。 海洋汚染物質 非該当
	重量物を上積みしない。

国内規制	陸上規制情報 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
	海上規制情報 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
	航空規制情報 航空法に定められている運送方法に従う。
特別安全対策	「7.取り扱い及び保管上の注意」の記載に従う事。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、落下、転倒もしくは破損しないように積載し、荷崩れ防止を確実にし、運搬すること。輸送前に容器が密閉されているか、又液やガスの漏れがないかを確認する。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

消防法危険物	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない

16. その他の情報

引用文献	<p>1) JIS Z 7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)</p> <p>2) JIS Z 7252 GHS に基づく化学品の分類方法</p> <p>3) 15308の化学商品 化学工業日報(2008)</p>
------	---

本記載内容は現時点で入手可能な資料、情報データ、当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学物質には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。記載内容のうち、含有量、物理的性質等の値は保証値ではありません。また、特別な取り扱いをする場合には、新たな用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。使用前のテストを含め、当該製品の適正に関する決定は使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。